

2019 年 6 月 3 日

ジュニアドクター育成塾愛媛大学

学生の進路選択に影響を与える情報ソースは？

男子は「学校の先生」・女子は「親族」が第 1 位

小学校 5 年生～中学校 3 年生を対象とした国立研究開発法人 科学技術振興機構の支援事業「ジュニアドクター育成塾愛媛大学」（所在地：松山市道後樋又 10-13 事務局長：大橋 淳史）は、2019 年 3 月 1 日～3 月 2 日の期間で「LINE Research」に登録している 15 歳～19 歳の男女会員 1,051 名に「進路選択に関するアンケート」の調査を実施した。

1. 向いている学部

生徒が自分に向いていると考える学部には、性別による有意差があることが明らかとなった。学部は表 1 の 12 領域とし、「わからない／答えたくない」を加えた 13 項目から択一式とした。「向いている学部」で、「わからない／答えたくない」を除く男子の上位 3 項目は「工学系」(20.74%)、「理学系」(10.56%)、「体育系」(8.33%)であった。一方、女子の上位 3 項目は「医歯薬・医療系」(12.92%)、「文学系」(11.74%)、「芸術系」(10.57%)であった。向いているとする率が 10%を超える学部は、男子は理学、工学の理系学部に偏り、女子は理系(「医歯薬・医療系」)、文系(「文学系」)、特殊技能系(「芸術系」)に分散する結果となった(表 1/図 1)。

表 1. 向いている学部

	理学系	法律・政治学系	文学系	農学系	体育系	社会・国際学系	工学系	芸術系	経済学系	教育学系	家政学系	医歯薬・医療系	わからない／答えたくない	その他	総計(人数)
女性	4.70	2.54	11.74	2.94	6.65	7.44	3.52	10.57	4.50	8.41	5.09	12.92	16.24	2.74	511
男性	10.56	5.00	6.30	4.26	8.33	4.81	20.74	3.52	7.59	7.04	0.37	4.63	15.19	1.67	540
総計(割合)	7.71	3.81	8.94	3.62	7.52	6.09	12.37	6.95	6.09	7.71	2.66	8.66	15.70	2.19	1051

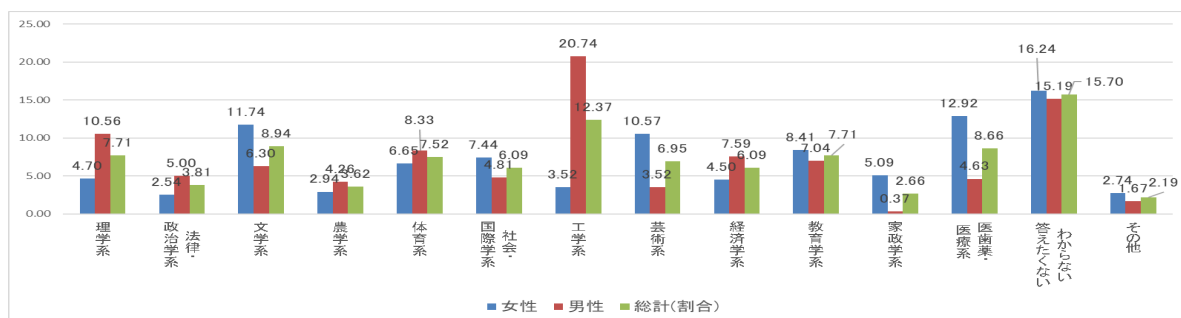


図 1. 向いている学部

2. 向いている理由

学部に向いていると考える理由は、男子は性格との一致、女子は学習内容を重視することが明らかになった。向いている理由については、表 2 の 11 項目から択一式とした。「向いていると思う理由」は、男子では「自分の性格にあっているから」(20.56%)、「深く学びたい学問だから」(18.89%)、「得意な教科がいかせるから」(15.93%)が上位 3 項目であった。一方、女子は「深く学びたい学問だから」(24.07%)、「自分の性格にあっているから」(19.96%)、「得意な教科がいかせるから」(18.79%)であった。上位 3 つの選択肢は男女で共通しているが、男女間で順位に差があり、男子は性格との一致、女子は学習内容を重視している傾向が示された(表 2/図 2)。

表 2. 向いていると思う理由

	得意な教科がいかせるから	深く学びたい学問だから	将来性のある就職先がありそうだから	就職しやすいから	自分の性格にあっているから	行きたい大学にある学部だから	給料の高い就職先がありそうだから	安定した就職先がありそうだから	ワークライフバランスが取れそうな就職先がありそうだから	わからない/答えたくない	なんとなく	その他	(空白)	総計
女性	18.79	24.07	4.31	0.98	19.96	3.72	1.37	4.89	0.78	0.78	2.94	1.17	16.24	511
男性	15.93	18.89	6.67	2.04	20.56	4.44	3.33	4.26	1.11	0.93	4.81	1.85	15.19	540
総計	17.32	21.41	5.52	1.52	20.27	4.09	2.38	4.57	0.95	0.86	3.90	1.52	15.70	1051

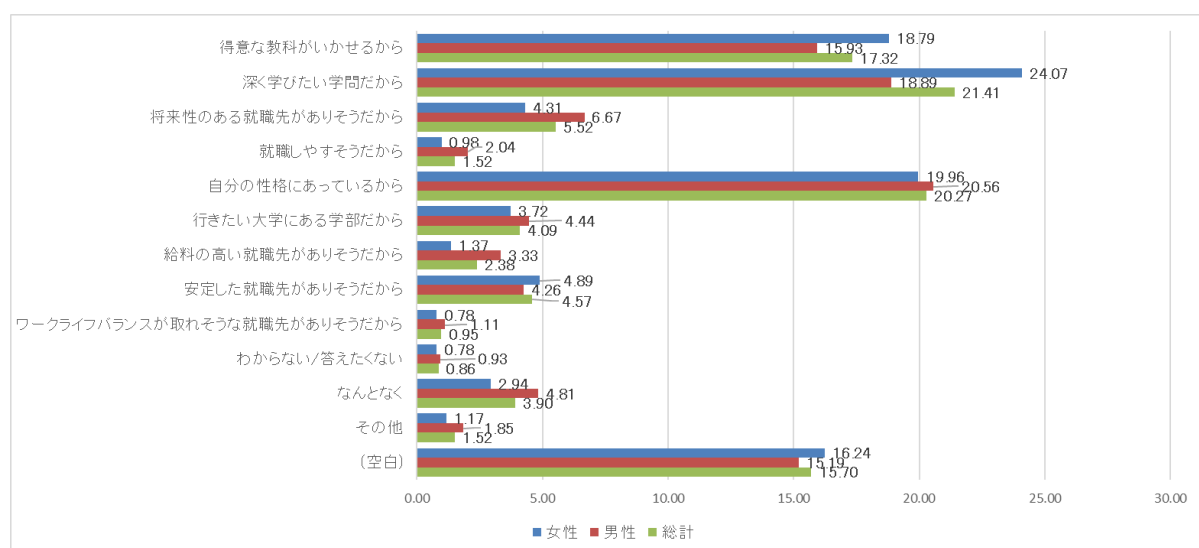


図 2. 向いている理由

3. 向いているという思いに影響を与えたもの

生徒が「自分に向いている」とした情報源は「特になし」が男女ともに最多であった。自分に「向いている」とする思いに「もっとも影響を与えた要因」を表 3 の 8 項目から択一式とした。

「向いている」にもっとも大きな影響の男子の上位 3 項目は、「特になし」(23.89%)、「学校の先生」(15.74%)、「親族(親や親せき)」(11.85%)であった。一方、女子は「特になし」(26.22%)、「親族(親や親せき)」(18.40%)、「学校の先生」(13.11%)であった。向いていると思う理由と同様に、選択肢は共通しているが、男女間で順位に差が認められた(表 3/図 3)。

表 3. 向いているという思いに影響を与えたもの

	友達	親族(親や親せき)	塾の先生	学校の先生	マスコミ(TV・新聞)	ネットの情報	その他	特になし	(空白)	総計
女性	6.26	18.40	2.74	13.11	7.05	2.74	7.24	26.22	16.24	511
男性	7.22	11.85	1.67	15.74	9.26	9.07	6.11	23.89	15.19	540
総計	6.76	15.03	2.19	14.46	8.18	5.99	6.66	25.02	15.70	1051

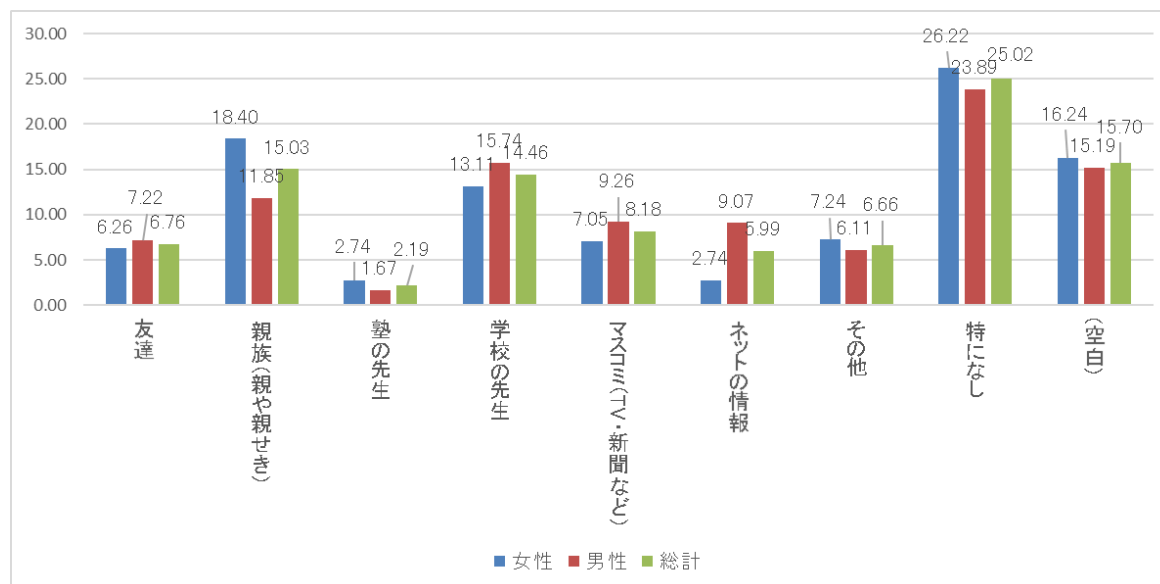


図 3. 向いているという思いに影響を与えたもの

4. まとめ

「向いている」という主観的な感情に影響を与える要因を特定し、その性差を確認することで、今後の性別に縛られない自由な進路選択の可能性を模索するために調査を実施した。

結果は「向いている」というポジティブな思考に影響を与えるものは、男子では「学校の先生」、女子では「親族」が首位となり、男女の情報ソースには有意な差が見られた。

このことから、進路選択におけるジェンダーバイアスをなくすためには、学校・家庭両者が協力して、児童生徒に対しより公平で固定概念のない情報開示をすることが求められるのではないだろうか。

【すべての調査結果はこちらからダウンロードいただけます】

<https://ジュニアドクター育成塾.jp/調査レポート/>

【進路選択に関するアンケート】

調査対象： 15歳～19歳の男女 1,051名

調査期間： 2019年3月1日～3月2日

調査方法： インターネット調査

調査会社： ジュニアドクター育成塾愛媛大学調べ

【団体概要】

団体名：国立大学法人愛媛大学 ジュニアドクター育成塾

代表者：教育学部 准教授 大橋 淳史

所在地：愛媛県松山市道後樋又 10 番 13 号

T E L : 089-927-9434

U R L : <https://ジュニアドクター育成塾.jp>

事業内容：国立研究開発法人科学技術振興機構が支援する、未知に挑戦したい科学技術に優れた才能を持つ小中学生を発掘し、さらにその能力を伸ばすための特別教育プログラム。

【本件に関するお問い合わせ】

国立大学法人 愛媛大学

教育学部理科教育専修

准教授 大橋 淳史

TEL : 089-927-9434

Mail : ohashi.atsushi.mu@ehime-u.ac.jp

<https://ジュニアドクター育成塾.jp>

調査・PR

n1marketing (エヌイチマーケティング)

代表 後藤 潤子

090-4837-0615

mail: junko-goto@n1marketing.jp

<https://n1marketing.jp>